

# 農作物病害虫発生現況情報（7月） 水稻編

## 1 いもち病（葉いもち）

- (1) 7月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率（発病葉率0.2%以上）は、5.0%（平年3.8%）であり、平年並であった（図1）。
- (2) 7月下旬の巡回調査（148圃場）では、県南部と沿岸部（遠野地域）で発生圃場率が平年より高かった（図2）。

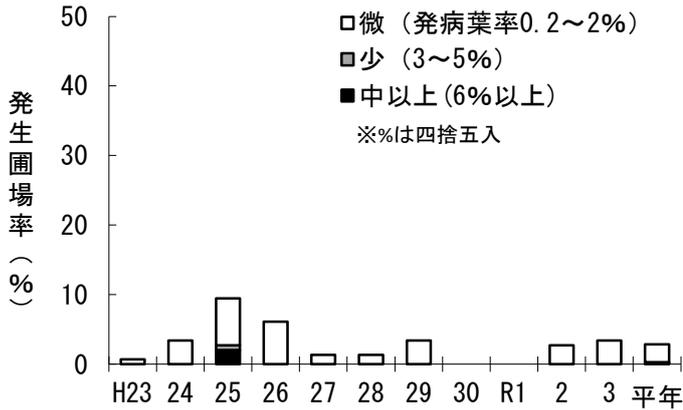


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移（7月下旬）

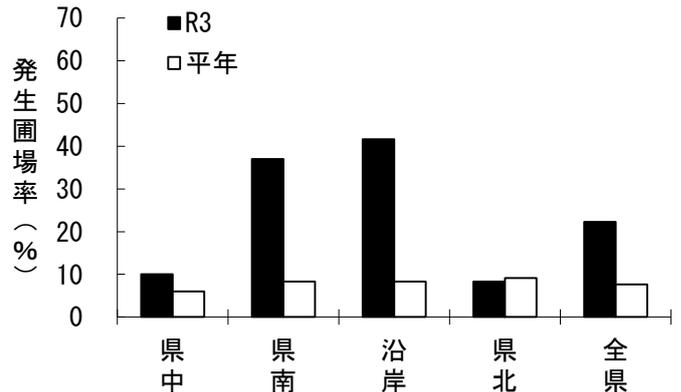


図2 葉いもち発生状況（7月下旬）

※100株調査で発病葉が認められた圃場率

## 2 紋枯病

- (1) 7月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は、20.9%（平年17.2%）であり、平年並であった（図3）。

## 3 ばか苗病

- (1) 7月上旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は、19.6%（平年7.6%）であり、平年より高かったが、発生程度の高い圃場は確認されなかった（図4）。

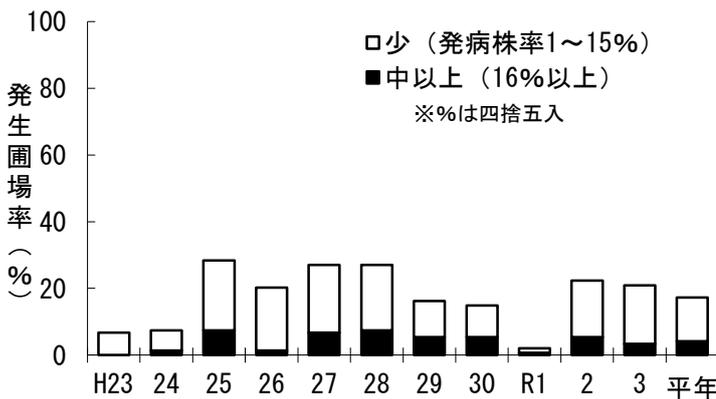


図3 紋枯病発生圃場率の年次推移（7月下旬）

※病斑が第4葉鞘以下の発病を含む

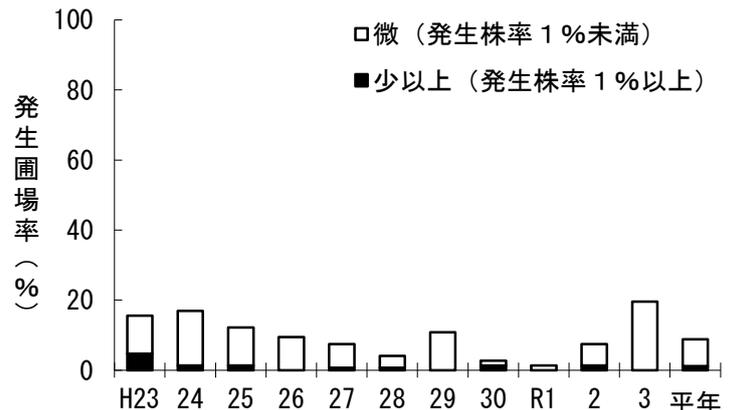


図4 ばか苗病発生圃場率の年次推移（7月上旬）

## 4 ごま葉枯病

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（データ省略）。

## 5 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）では、7月第5半旬にカスミカメムシ類幼虫のすくい取り頭数が増加した（図5）。
- (2) 7月14～21日に実施した水田畦畔におけるすくい取り調査（74圃場）では、発生圃場率は70.3%（平年41.9%）で平年より高く、1地点当たりのすくい取り頭数も12.0頭（平年7.9頭）であり、平年より多かった（図6）。
- (3) 特に、イネ科雑草が出穂している畦畔では、アカスジカスミカメ成幼虫がすくい取られている。

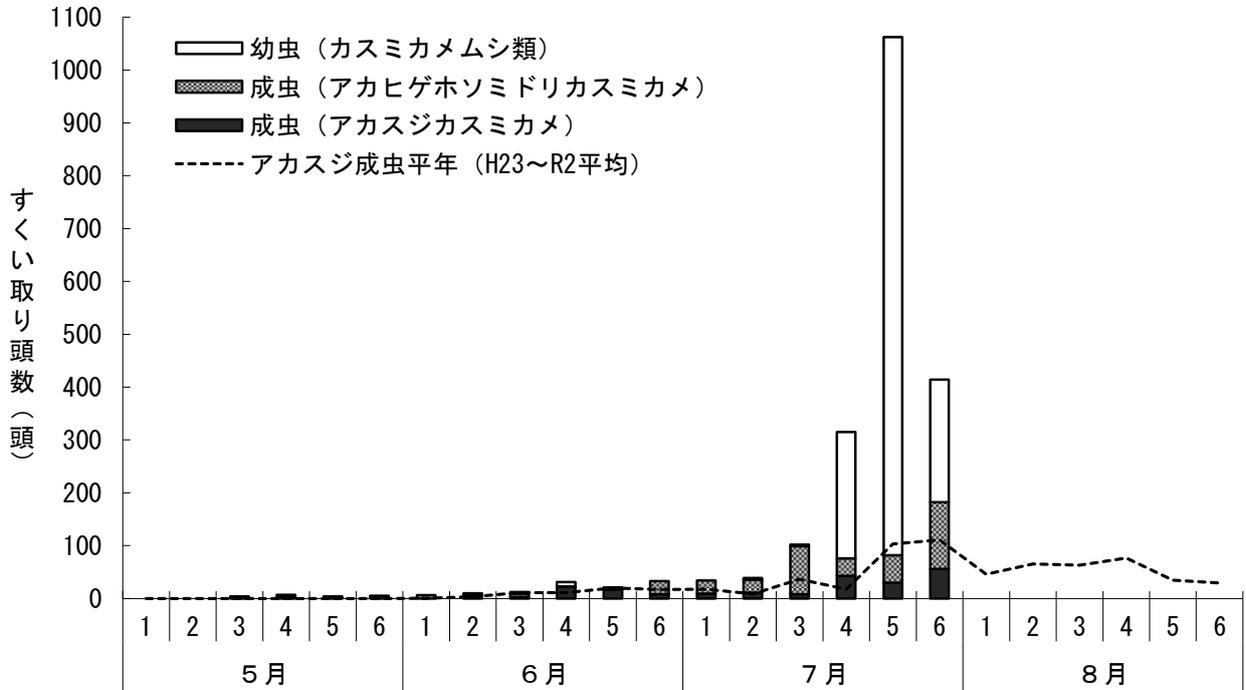


図5 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるカスミカメムシ類の発生推移（7月第6半旬現在、往復20回振）

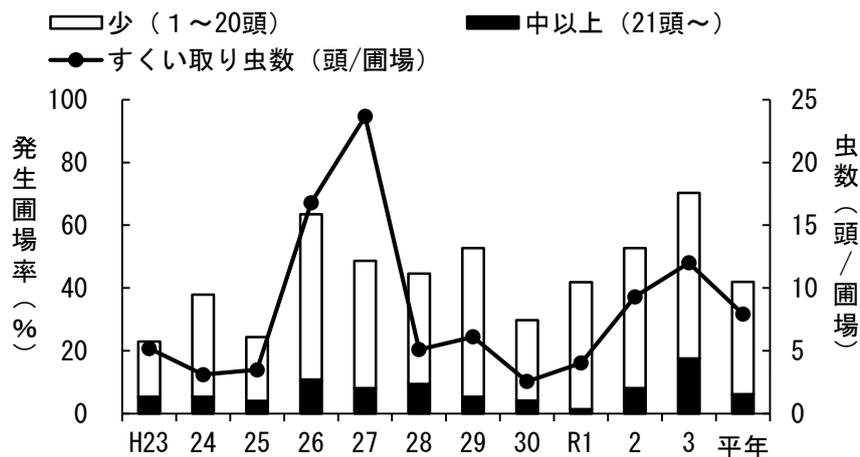


図6 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移（7月下旬、水田畦畔すくい取り、往復20回振）

## 6 フタオビコヤガ (イネアオムシ)

(1) 7月の本田すくい取り調査 (39 圃場) における第2世代幼虫の発生圃場率は、7月上旬は10.3% (平年16.4%)、7月下旬は20.5% (平年31.6%) であり、平年よりやや低かった (図7)。

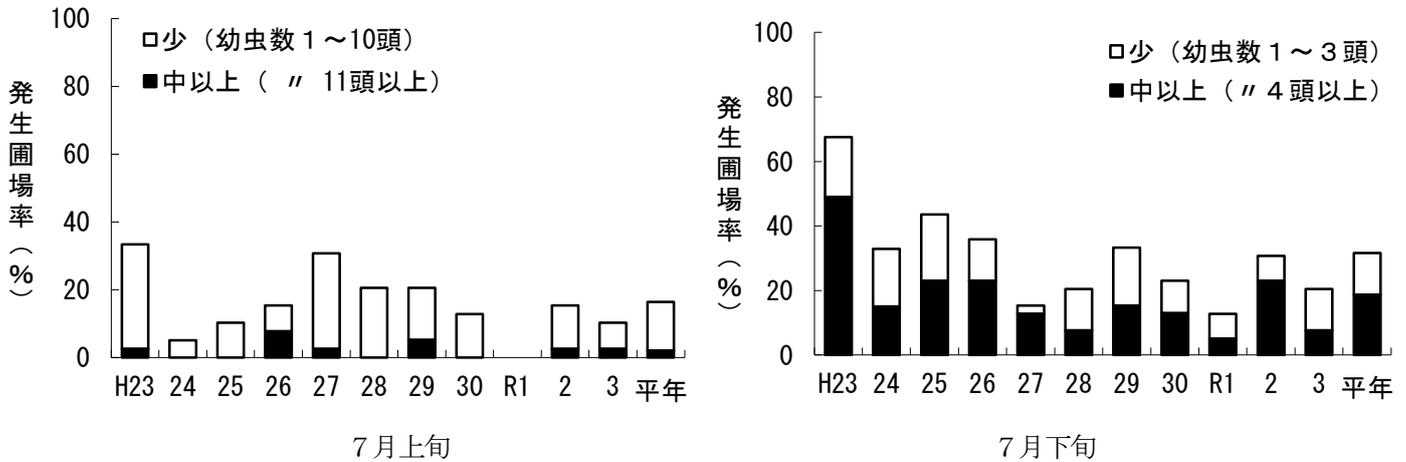


図7 フタオビコヤガ (イネアオムシ) 幼虫の発生圃場率の年次推移  
(7月上下旬、本田すくい取り、往復20回振)

## 7 ウンカ類

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、ヒメトビウンカが確認されたが、発生圃場率は5.1% (平年2.1%) で平年並に低かった (データ省略)。

## 8 コバネイナゴ

(1) 7月の本田すくい取り調査では、7月上旬の発生圃場率は69.2% (平年61.8%) で平年並であり、7月下旬は89.7% (平年72.1%) で平年よりやや高かった (図8)。

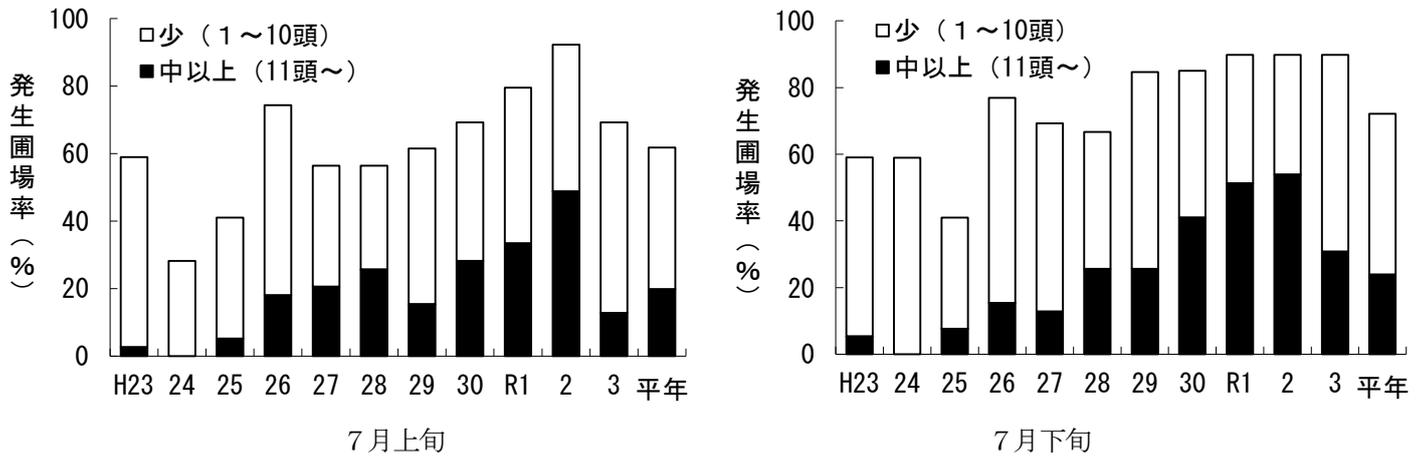


図8 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移  
(7月上下旬、本田すくい取り、往復20回振)

## 9 ツマグロヨコバイ

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、平年同様に発生は確認されなかった (データ省略)。

# 農作物病害虫発生現況情報（7月） りんご編

## 1 斑点落葉病

- (1) 基準圃場（北上市成田、スターキングデリシャス、無防除）における初発は例年並の6月第1半旬となり、発病葉率は7月第2半旬までは平年より低く推移したが、7月第3半旬に急増した（図1）。
- (2) 7月後半の巡回調査でのふじの発生園地率は45.2%（平年43.2%）で平年並だったが、一部園地では流れ型病斑が発生した（図2）。また、発生度は15.3（平年14.8）で平年並だった（図3）。

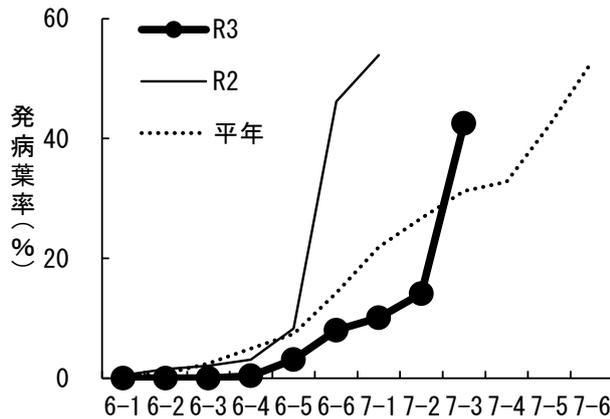


図1 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移（月-半旬、スターキングデリシャス、新梢葉）

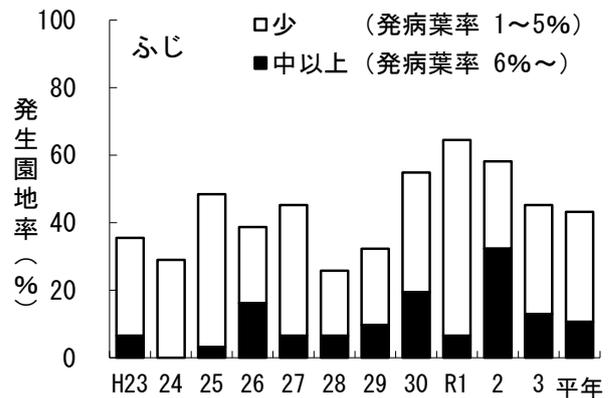


図2 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（ふじ、7月後半、徒長枝上位10葉）

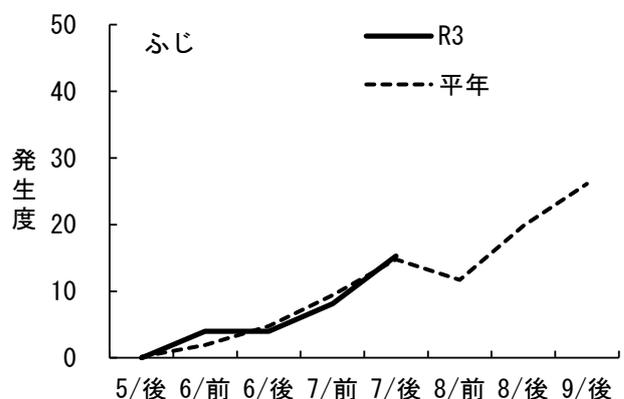
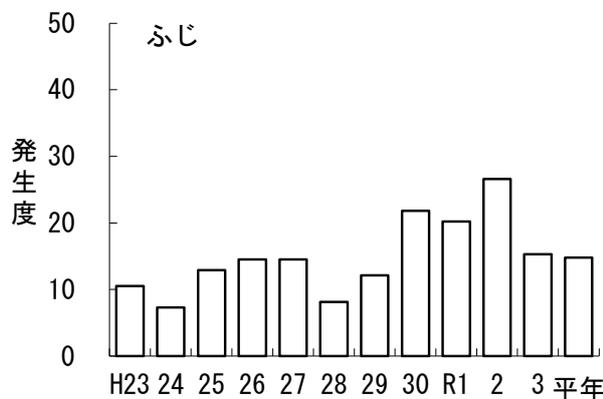


図3 斑点落葉病の発生度（ふじ、左図：7月後半の年次推移、右図：時期別の推移）

※1 「発生度」 = (4A + 3B + 2C + D) × 100 / (調査園地数 × 4)、A: 発病葉率 21%~、B: 11~20%、C: 6~10%、D: 1~5%の園地数

※2 5月後半は果叢葉、6月前半~7月前半は新梢葉全葉、7月後半以降は徒長枝先端10葉による調査。

## 2 黒星病

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生園地率は29.0%（平年5.8%）で平年より高かった（図4）。
- (2) 県内で広く発生しており、特に県中部で発生園地率が高かった（図5）。

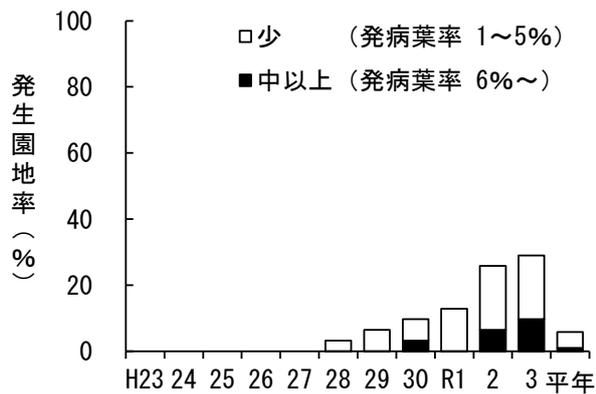


図4 黒星病の発生園地率の年次推移 (7月後半、徒長枝葉)

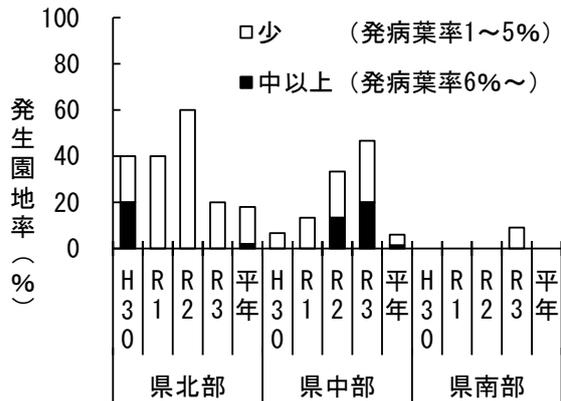


図5 黒星病の地域別発生園地率 (7月後半、徒長枝葉)

### 3 褐斑病

- (1) 基準圃場 (北上市成田、ふじ、無防除) における初発は例年よりやや早い6月第2半旬となり、発病葉率は平年より高く推移し、7月第3半旬に急増した (図6)。
- (2) 7月後半の巡回調査では、発生園地率は9.7% (平年6.1%) で平年よりやや高かった (図7)。
- (3) 地域別では、県中部及び県南部で発生が確認された (図8)。

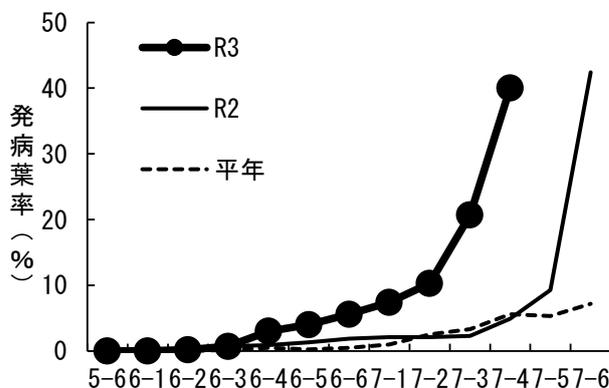


図6 基準圃場における褐斑病の発病葉率の推移 (月-半旬、ふじ、新梢葉)

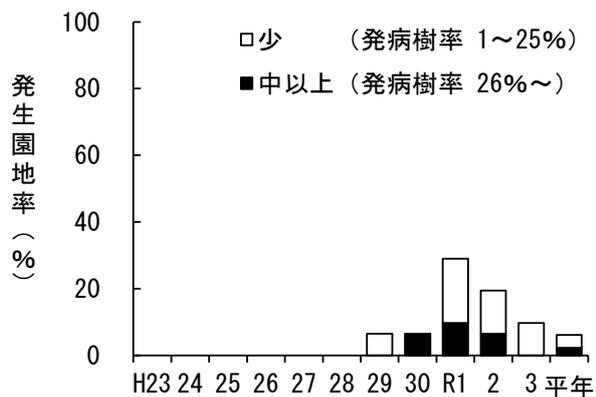


図7 褐斑病の発生園地率の年次推移 (7月後半)

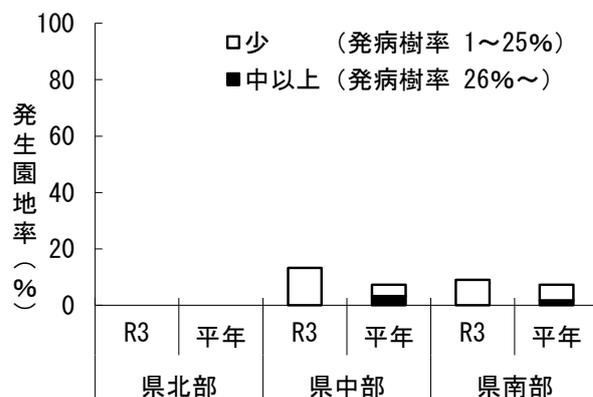


図8 褐斑病の地域別発生園地率 (7月後半)

#### 4 キンモンホソガ

(1) 7月後半の巡回調査でのキンモンホソガ第2世代の発生園地率は3.2%（平年6.5%）で、平年よりやや低かった（図9）。

#### 5 ギンモンハモグリガ

(1) 7月後半の巡回調査でのギンモンハモグリガ第3世代の発生園地率は0%（平年23.5%）で、平年より低かった（図10）。

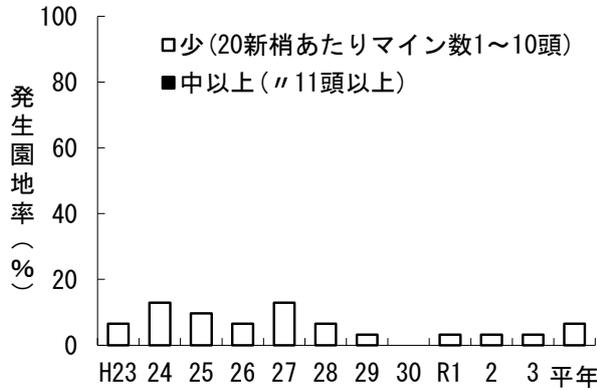


図9 キンモンホソガ第2世代の発生園地率の年次推移（7月後半）

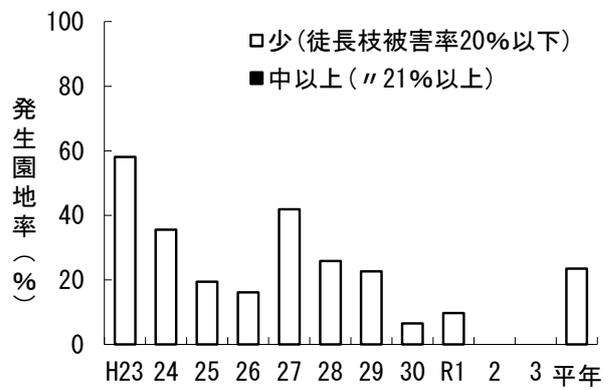


図10 ギンモンハモグリガ第3世代の発生園地率の年次推移（7月後半）

#### 6 リンゴハダニ

(1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は目通り 29.0%（平年16.8%）、樹上部31.0%（平年16.4%）で、ともに平年より高かった。また、発生程度が中以上は目通り 6.5%（平年4.2%）で平年並、樹上部3.4%（平年7.0%）で平年よりやや低かった（図11）。

(2) 目通りの時期別の発生程度中以上の園地率は、平年並に推移している（図12）。

(3) 目通りの地域別発生園地率は、県北部と県中部で発生程度の高い園地がみられた（図13）。

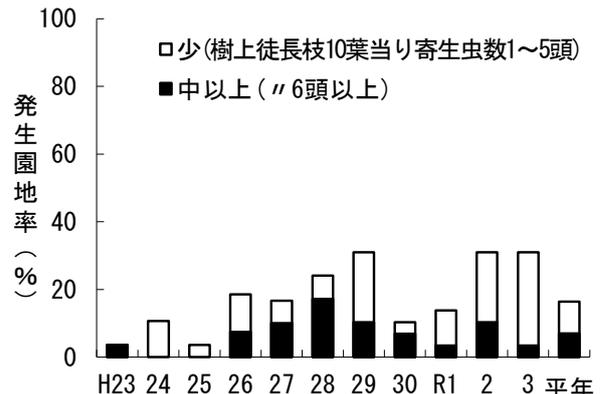
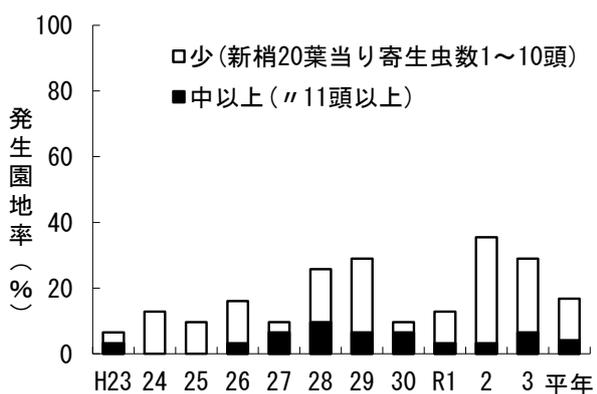


図11 リンゴハダニの発生園地率の年次推移（7月後半、左：目通り、右：樹上部）

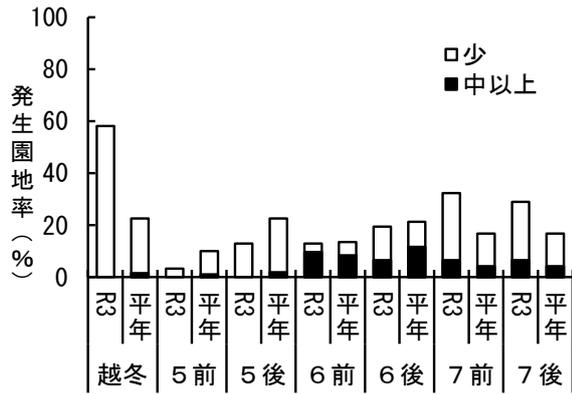


図12 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

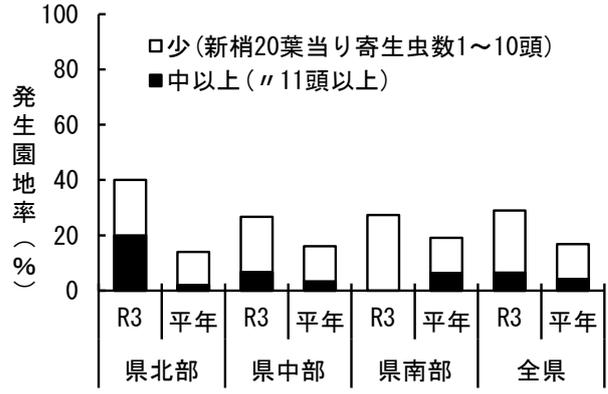


図13 リンゴハダニの地域別発生園地率 (7月後半, 目通り)

## 7 ナミハダニ

- (1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は、目通りで51.6% (平年40.6%) で平年よりやや高く、樹上部34.5% (平年35.7%) で平年並であった。また、発生程度が中以上は目通り12.9% (平年14.0%)、樹上部17.2% (平年12.6%) でともに平年並であった (図14)。
- (2) 目通りの時期別の発生程度中以上の園地率は、概ね平年並に推移している (図15)。
- (3) 目通りの地域別発生園地率は、県北部で発生程度の高い園地が多かった (図16)。

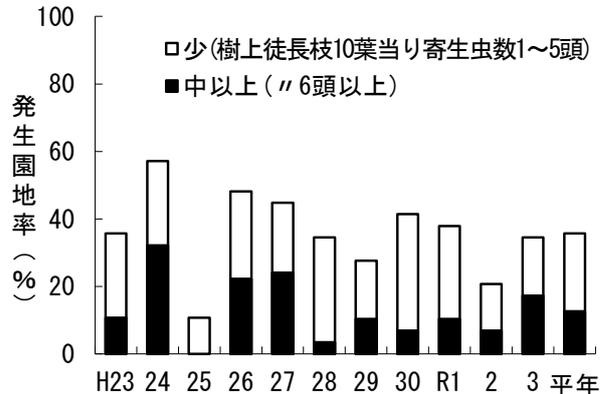
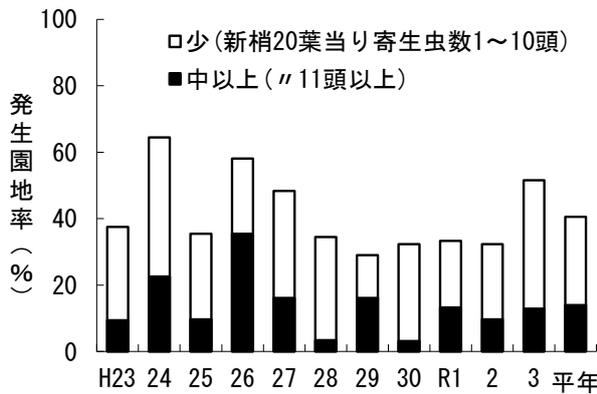


図14 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (7月後半, 左: 目通り, 右: 樹上部)

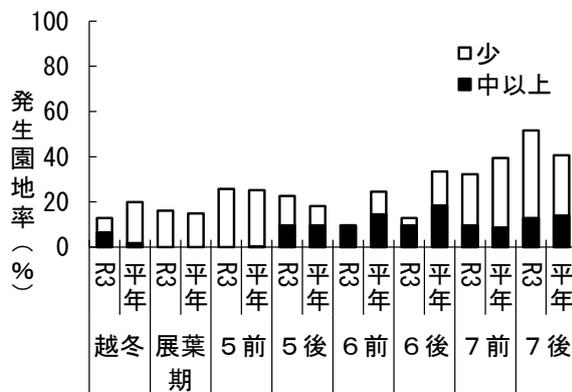


図15 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

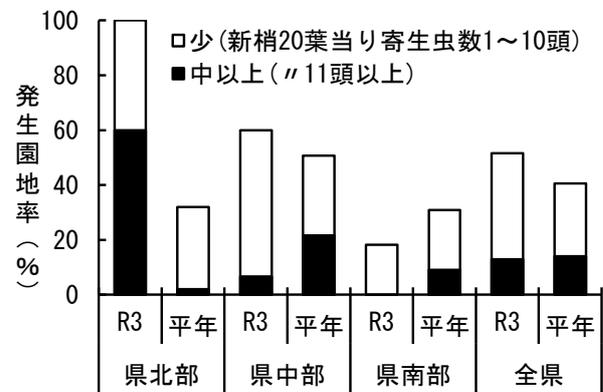


図16 ナミハダニの地域別発生園地率 (7月後半, 目通り)

## 8 シンクイムシ類

(1) 7月後半の巡回調査での被害果発生園地率は0% (平年0.3%) で、平年並であった (図17)。

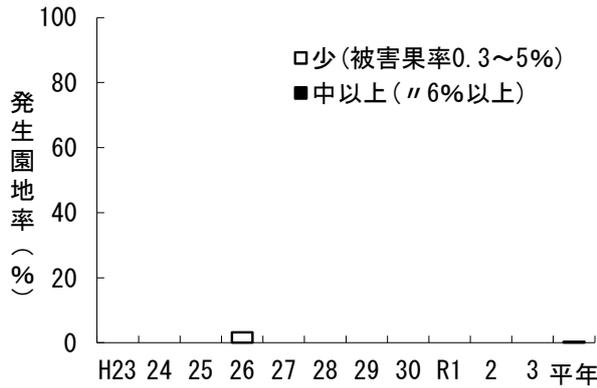


図17 シンクイムシ類の発生園地率の年次推移 (7月後半)

## 9 果樹カメムシ類

- (1) 7月後半の巡回調査での被害果発生園地率は48.4% (平年28.8%) で、平年よりやや高かった (図18)。
- (2) 被害果の時期別発生園地率は、6月後半から平年より高く推移した (図19)。
- (3) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃では平年より多く、現地では概ね平年並に推移している (図20、図21)。
- (4) 予察灯へのクサギカメムシの誘殺数は、7月第4半旬頃に平年より高くなった (図22)。

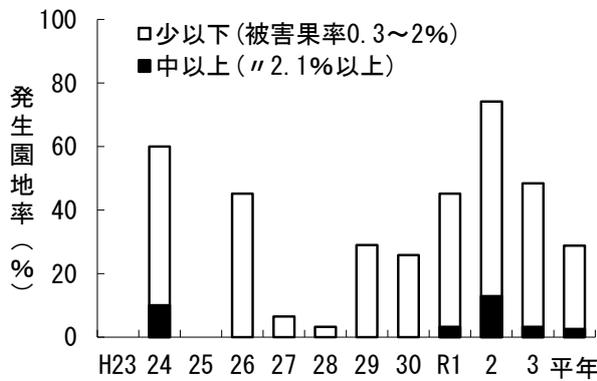


図18 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移 (7月後半、ふじ)

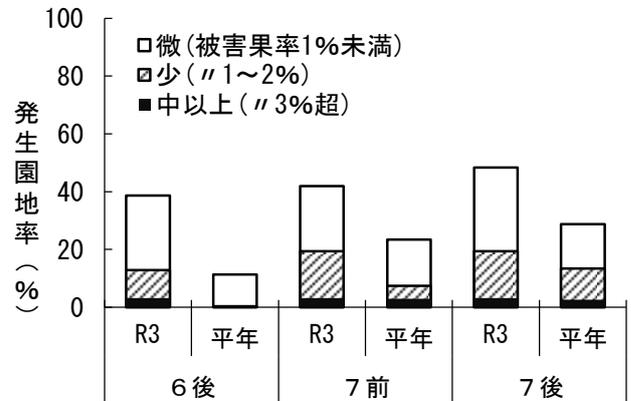


図19 果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率の推移 (ふじ)

※7月前半の平年値のみ過去9年(H24~R2)の平均

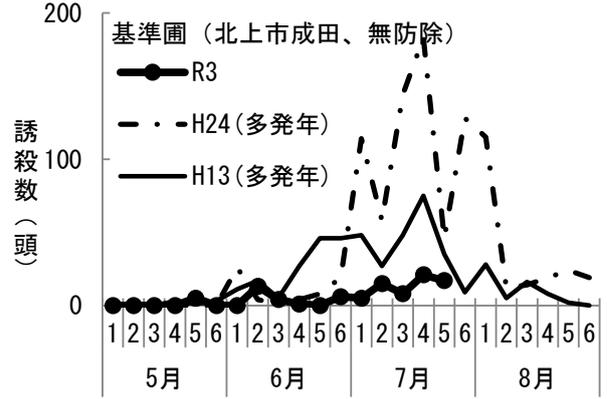
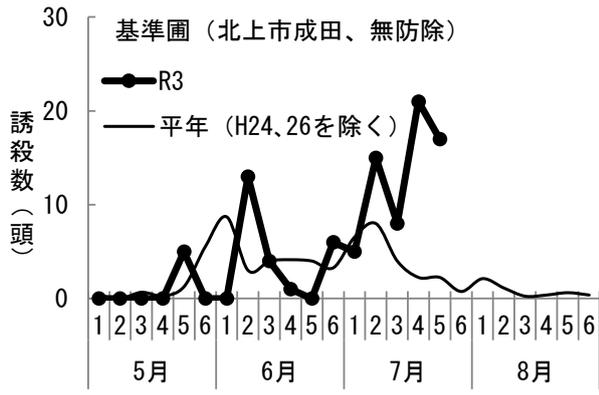


図20 基準圃場におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況  
(基準圃 (北上市成田・無防除)) (左: 平年との比較、右: 多発年 (H13、H24) との比較)

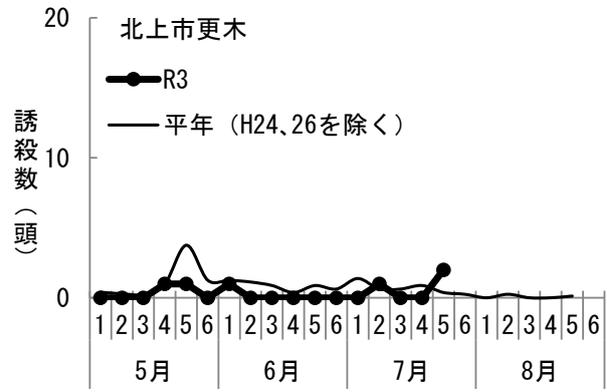
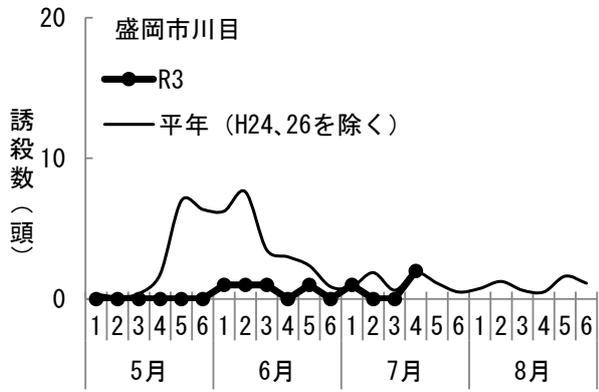


図21 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況  
(左: 盛岡市川目、右: 北上市更木)

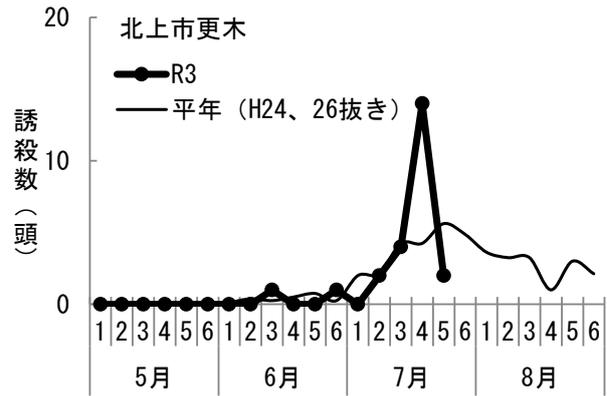
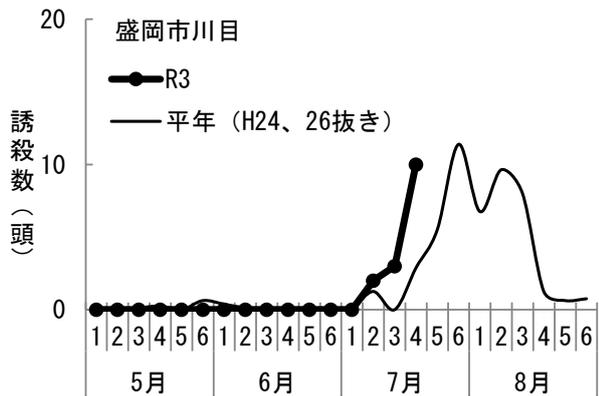


図22 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況  
(左: 盛岡市川目、右: 北上市更木)

# 農作物病害虫発生現況情報（7月）きゅうり編

## 1 ベと病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は30.8%（平年28.5%）で、平年並であった（図1）。

## 2 うどんこ病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は7.7%（平年10.8%）で、平年並であった（図2）。

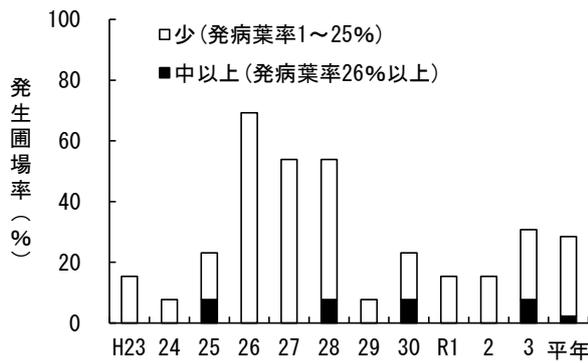


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

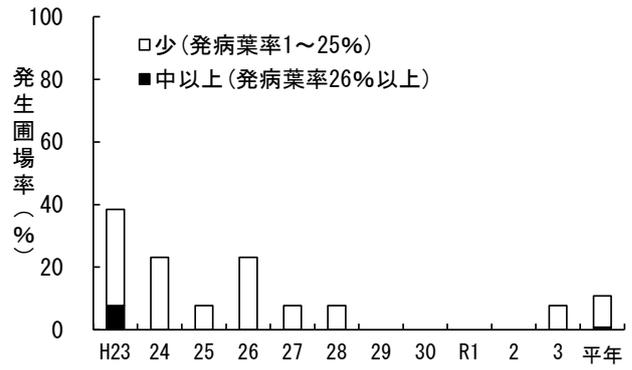


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

## 3 斑点細菌病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は69.2%（平年15.4%）で平年よりかなり高く、発生程度の高い圃場もみられた（図3）。

## 4 黒星病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生はみられなかった（平年9.2%、図4）。

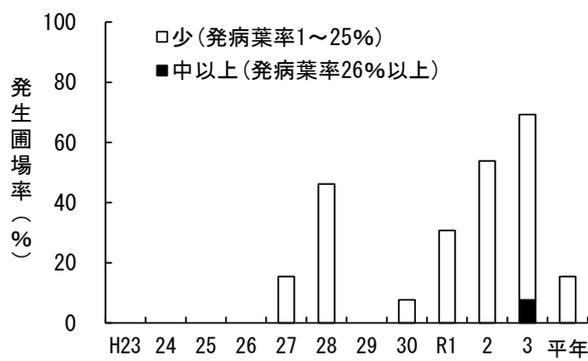


図3 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

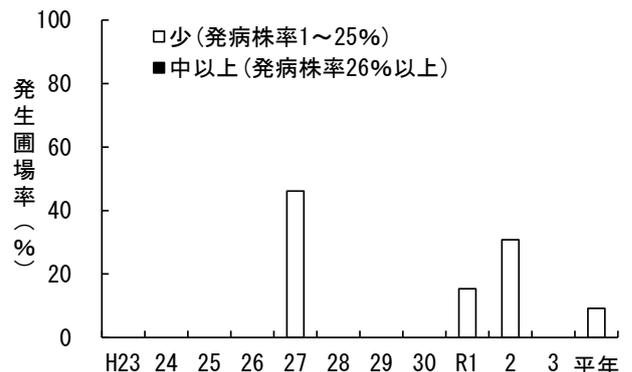


図4 黒星病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

## 5 褐斑病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は46.2% (平年20.8%)、発生程度が中以上の圃場率は15.4% (平年5.4%) で、発生圃場率、程度とも平年より高かった (図5)。

## 6 炭疽病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は61.5% (平年26.2%) で、平年より高かった (図6)。

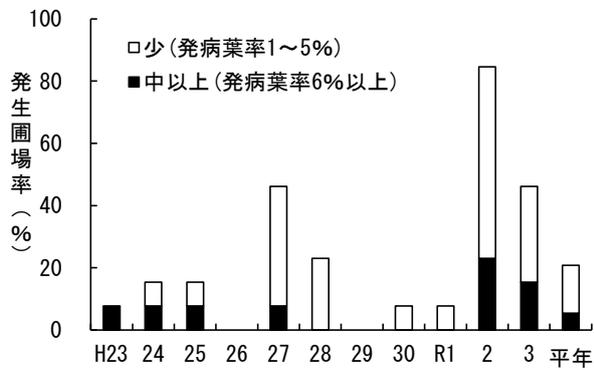


図5 褐斑病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

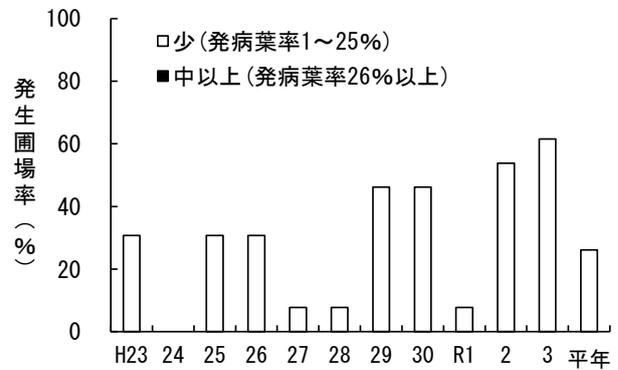


図6 炭疽病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

## 7 ワタアブラムシ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生はみられなかった (平年18.5%、図7)。

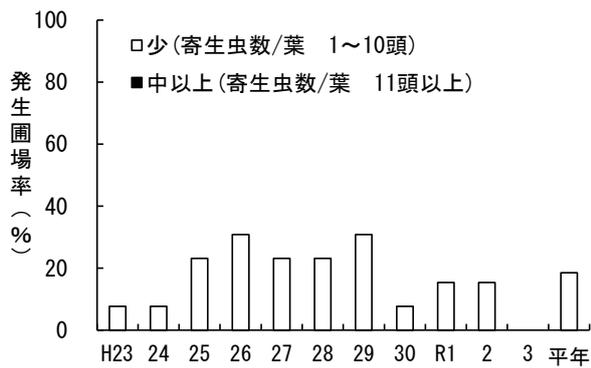


図7 ワタアブラムシの発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

# 農作物病害虫発生現況情報（7月）キャベツ編

## 1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移した（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりも少なく推移した（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、7月第3半旬まで平年並に推移し、以降は平年よりも少なく推移した（図3）。
- (4) 7月中旬の巡回調査では、産卵、幼虫の発生ともに確認されなかった（産卵圃場率：平年39.8%、図4、幼虫発生圃場率：平年40.4%、図5）。

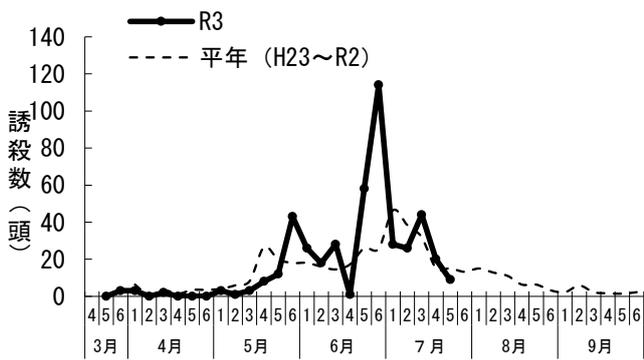


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

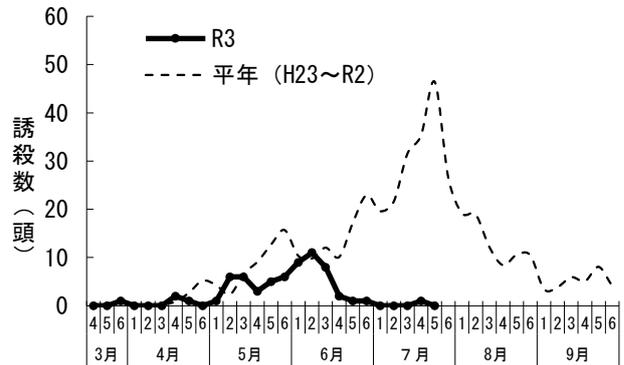


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

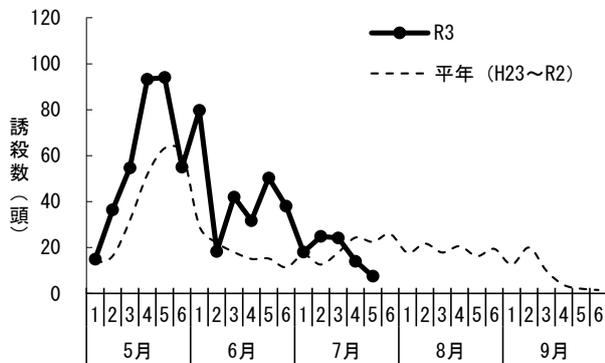


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

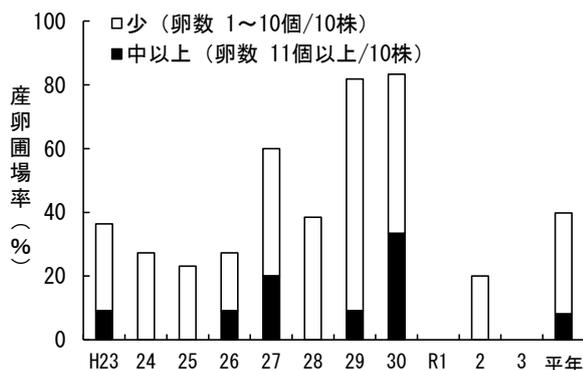


図4 コナガ産卵圃場率の年次推移（7月中旬）

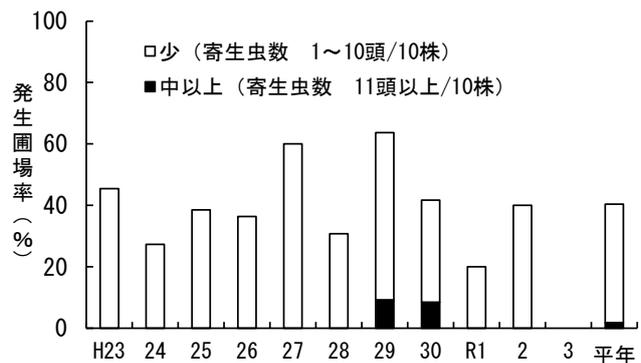


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（7月中旬）

## 2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、7月第5半旬に確認された（図6）。
- (2) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、7月には確認されなかった（図7）。
- (3) 7月中旬の巡回調査では、産卵は確認されなかった（平年7.2%、図8）。

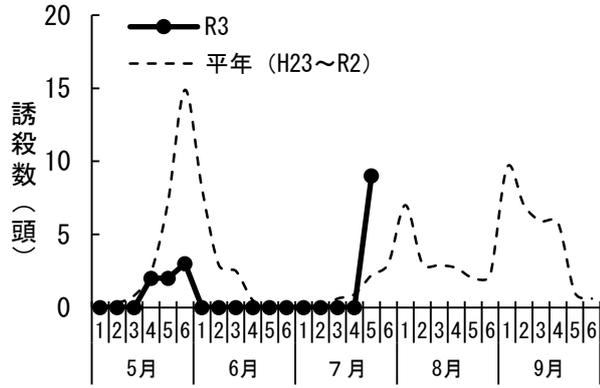


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガの誘殺状況

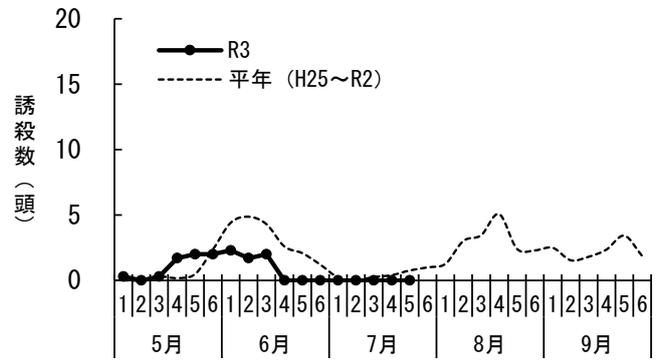


図7 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

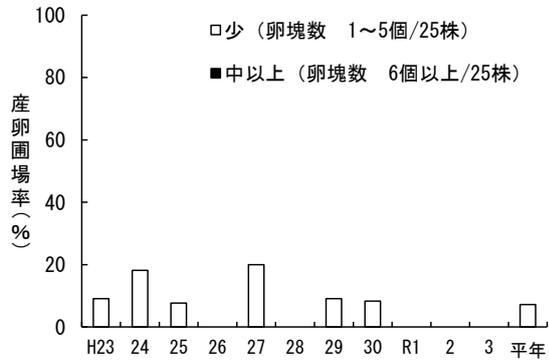


図8 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（7月中旬）

### 3 タマナギンウワバ

- (1) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりも少なく推移した (図9)。
- (2) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移した (図10)。
- (3) 7月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は10.0% (平年17.8%) で、平年よりも低かった (図11)。

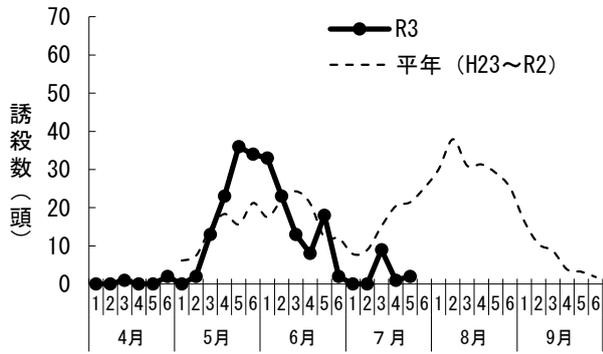


図9 軽米町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

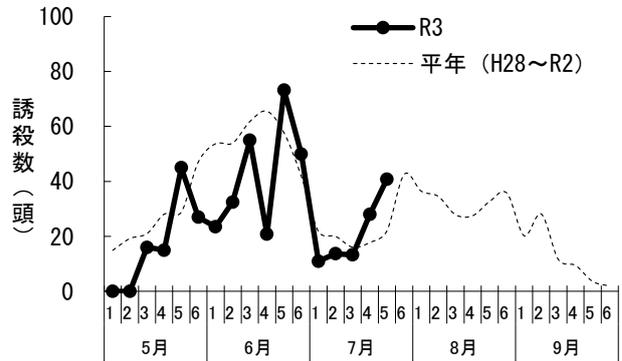


図10 岩手町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

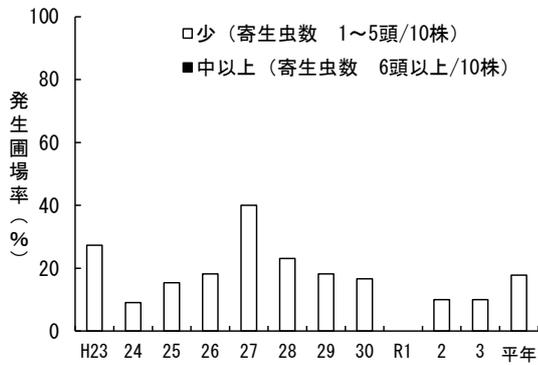


図11 ウワバ類幼虫発生圃場率の年次推移 (7月中旬)

### 4 モンシロチョウ

- (1) 7月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は10.0% (平年33.5%) で、平年よりも低かった (図12)。

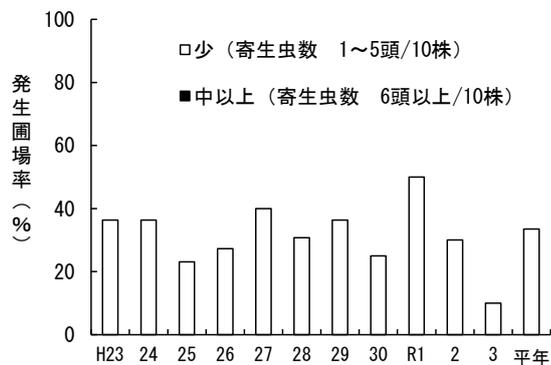


図12 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移 (7月中旬)

# 農作物病害虫発生現況情報（7月） ねぎ編

## 1 さび病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は40.0%（平年35.0%）であり、平年並であった（図1）。

## 2 べと病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年19.0%、図2）。

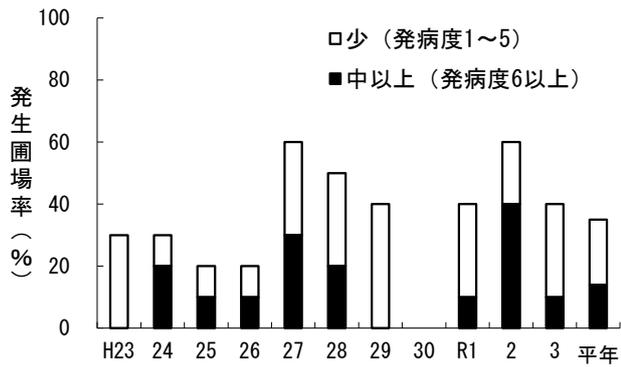


図1 さび病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

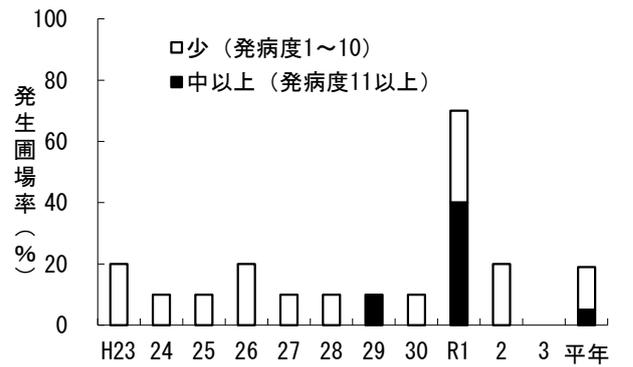


図2 べと病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

## 3 黒斑病・葉枯病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は50.0%（平年34.0%）であり、平年よりも高かった（図3）。

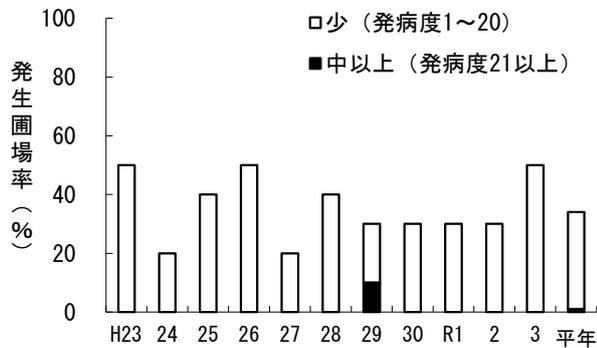


図3 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

#### 4 ネギコガ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は40.0%（平年35.0%）であり、平年並であった（図4）。

(2) 時期別の被害葉率は、7月上旬以降、平年よりも高く推移している（図5）。

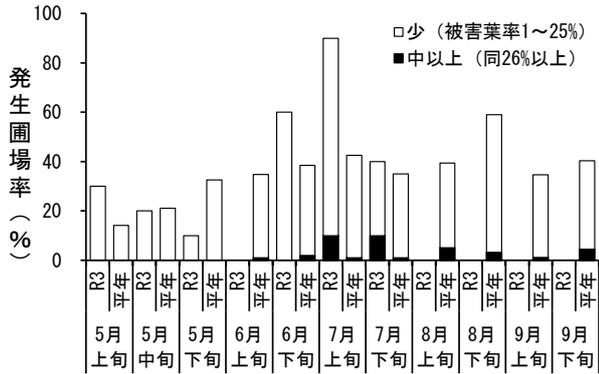


図4 ネギコガの発生圃場率の時期別推移

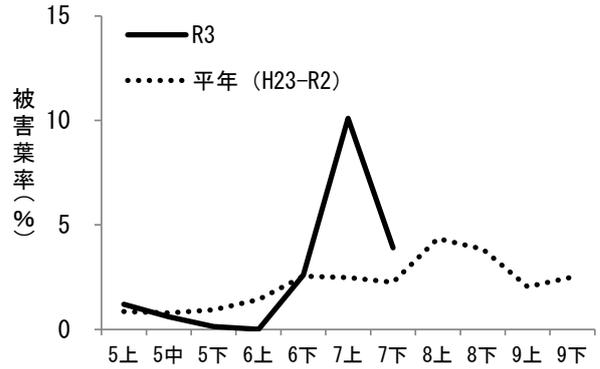


図5 ネギコガによる被害葉率の時期別推移

#### 5 ネギハモグリバエ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は80.0%（平年57.9%）、被害程度中以上の圃場率は30.0%（平年17.7%）であり、ともに平年よりも高かった（図6）。

(2) 時期別の被害度は、7月上旬は平年よりも高かったが、7月下旬には平年並となった（図7）。

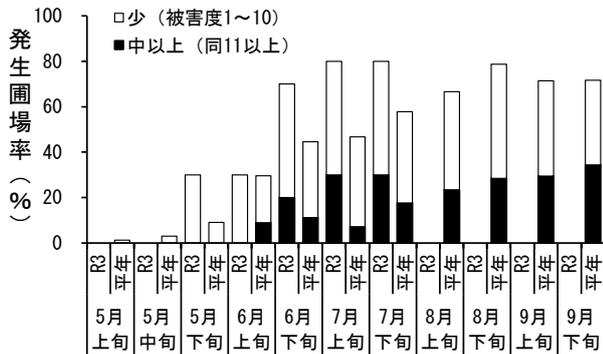


図6 ネギハモグリバエの発生圃場率の時期別推移

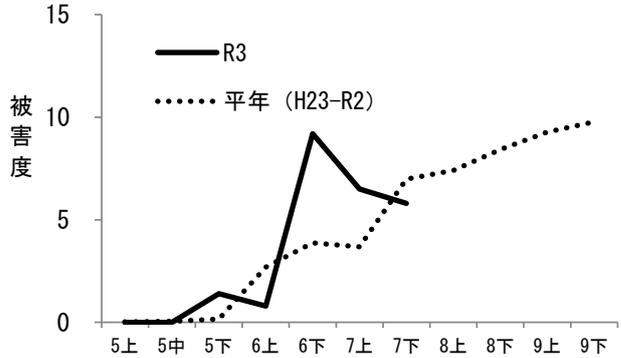


図7 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

#### 6 ネギアザミウマ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年88.0%）、被害程度中以上の圃場率は80.0%（平年46.8%）であり、ともに平年よりも高かった（図8）。

(2) 時期別の被害度は、平年よりも高く推移している（図9）。

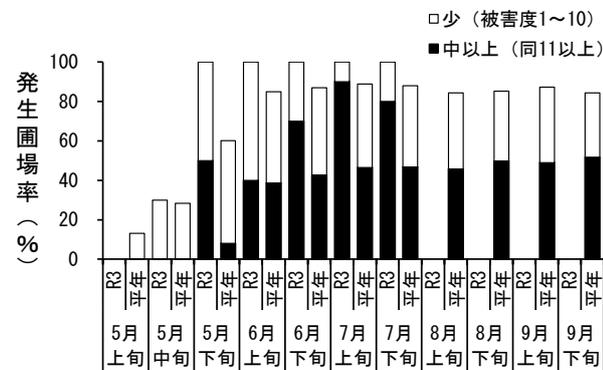


図8 ネギアザミウマの発生圃場率の時期別推移

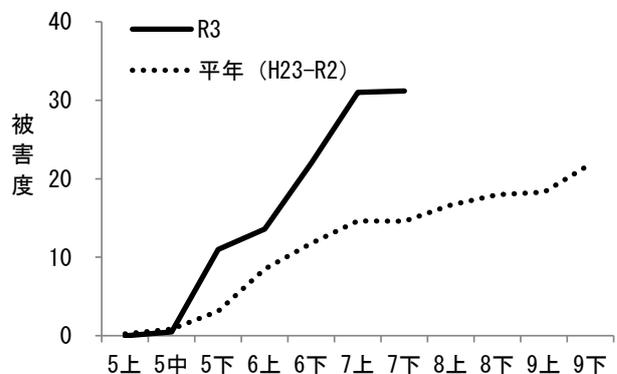


図9 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移

# 農作物病害虫発生現況情報（7月）りんどう編

## 1 葉枯病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は28.6%（平年29.4%）で、平年並であった。また、採花部での発生はみられなかった（平年2.1%、図1）。

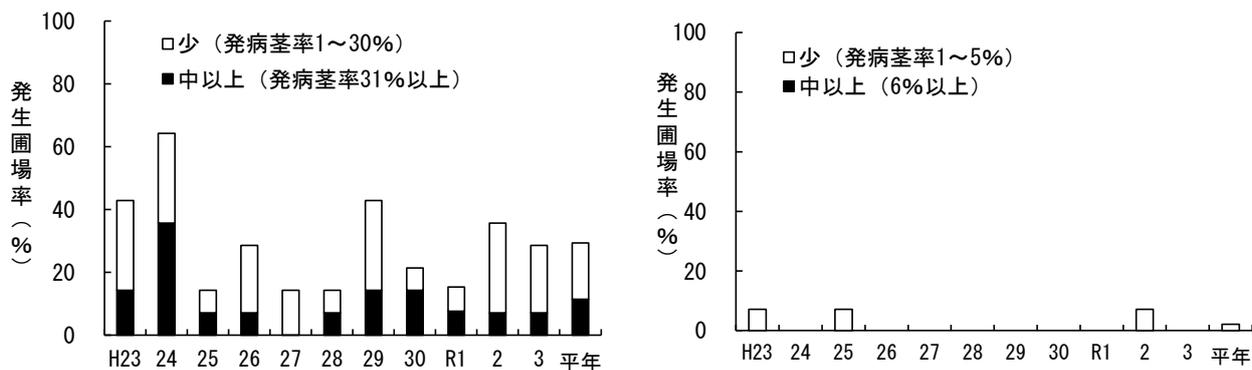


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（左：株全体、右：採花部、7月下旬）

## 2 褐斑病

(1) 7月下旬の巡回調査では、平年どおり発生は確認されなかった。

## 3 ハダニ類

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は28.6%（平年26.5%）で平年並であり、寄生虫数の多い圃場はみられなかった（図2）。

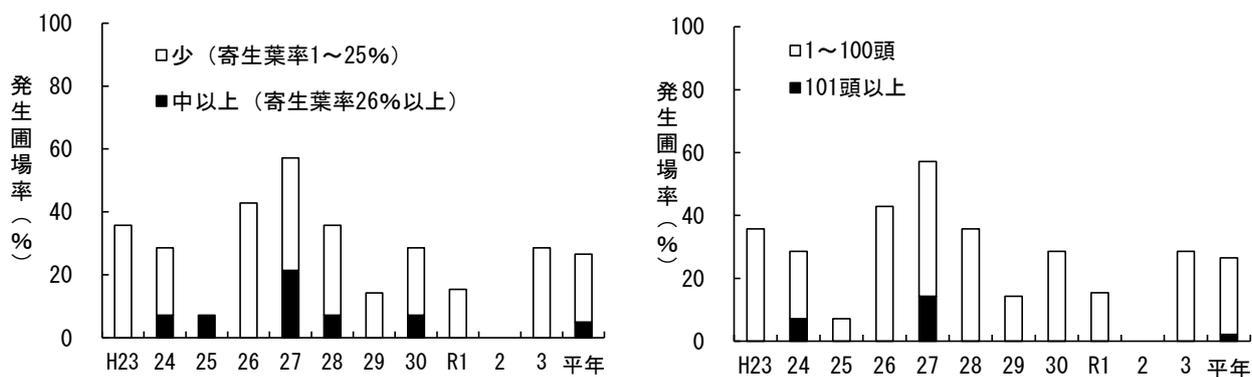


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉中、7月下旬）

#### 4 リンドウホソハマキ

(1) 7月下旬の巡回調査では、潜葉痕の被害発生圃場率は14.3%（平年25.1%）、生長部および茎部の被害発生圃場率は7.1%（平年25.1%）で、いずれも平年より低かった（図3）。

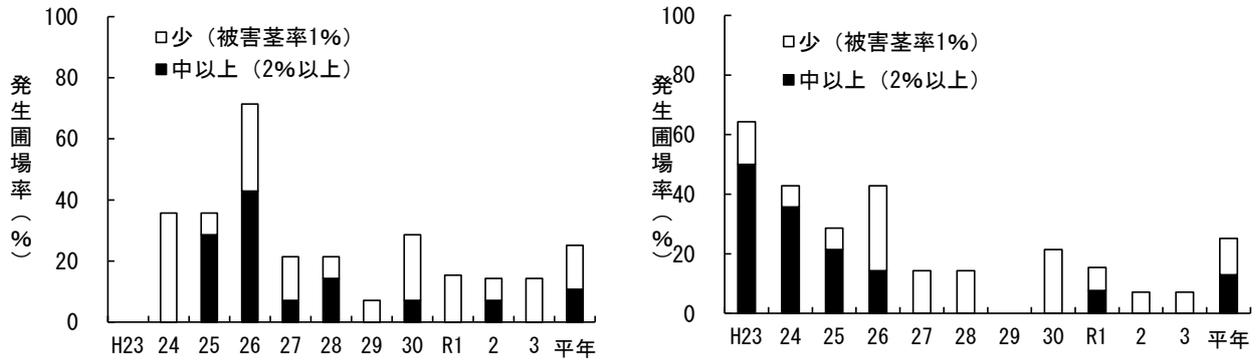


図3 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移（左：潜葉痕、右：生長部・茎部、7月下旬）

#### 5 アザミウマ類

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は36.4%（平年51.1%）で、平年より低かったが、発生程度の高い圃場もみられた（図4）。

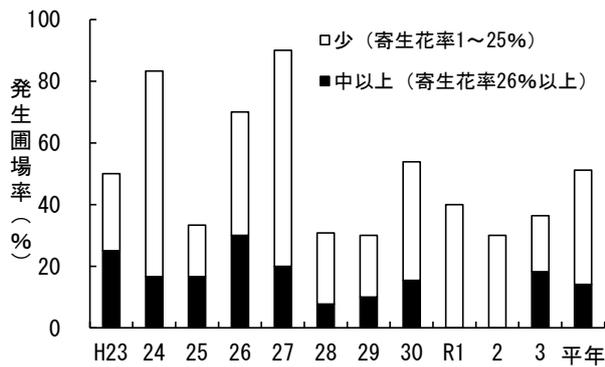


図4 アザミウマ類の発生圃場率の年次推移（7月下旬）